



目次	
第8回 花火大会	1
診療科紹介 (内科)	2
診療科紹介 (整形外科)	3
外来診療担当医表 (10月1日現在)	4

## 「第8回花火大会」

千葉東病院重症心身障害病棟恒例の花火大会が7月20日(木)開催されました。

今年の天候はご存知のとおり梅雨が長引き開催が危ぶまれましたが、神懸かり的に前日まで降っていた雨は当日全く降らず、翌日は大雨という奇跡が起きました。

夕方になるとご家族の方やボランティアの方々と共に病棟から数分の花火大会会場に向かいます。道中にはお祭りの提灯が灯り、会場に着くと模擬店が並んで大混雑しています。仮設のステージでは、山岸院長の開会の挨拶から始まり、一年間を通して交流のある川戸中学校の生徒さん達の元気な「よさこいソーラン」踊りを楽しんだり、千葉大学のジャズバンドの演奏を楽しんだりします。

7時半になると辺りも真っ暗になり、いよいよ打ち上げです。一つ一つ花火の説明が入り、約15秒間隔で次々に打ち上げられ、その度に歓声が上がります。花火は全てスターマインでとても見応えのあるもので、一つ一つの花火が千葉東病院の患者様用に造られています。

当院の周辺は住宅街であり、近隣町内会に挨拶に伺うと「毎年楽しみにしている」と言ってく方が毎年増えており、実際に当日は大勢の町内会の方々が見物にきていただいております。

最後にこの花火大会を支えてくれている多くの人たちの中で、千葉県消防学校の教官と学生(消防士)60名の力と優しさは感動するものがあり、中学生の元気な踊りは大きな力を与えてくれるものでした。ほかにも100人を超えるボランティアさんの援助があってこそ開催できるもので心より感謝しております。

来年も本当の花火を見ようと、心に誓い夏の一晩が終わりました。(療育指導室長:小野澤 直)





内科

当院内科の特徴

内科は、腎疾患、内分泌代謝疾患を専門的に診療すると共に、他の内科系診療科と連携することにより幅広い分野の疾患を扱っております。私どもが扱う疾患は診断、治療と共に生活指導が大きな役割を果たします。

当院では、腎臓教室、糖尿病教室（日程表）を定期的に開催し患者の皆様への情報提供を心がけております。

担当医：第一診療部長 西村元伸  
 臨床研究センター部長 石橋賢一  
 内科医長 今澤俊之  
 臨床研究センター室長 関直人  
 臨床研究センター室長 小林克樹  
 内科医師 首村守俊  
 内科医師 祖山暁子

「メタボリックシンドローム」

西村元伸

過食、運動不足といった悪い生活習慣が続くと肥満になります。肥満とは、言うまでもなく体に余分な脂肪組織が蓄積した状態ですが、近年の科学に進歩によって、脂肪組織、特に内臓脂肪が、血糖、血圧、脂質代謝に影響するいろいろな生理活性物質を作っていることがわかりました。そして、内臓脂肪蓄積が原因となって、これらの生理活性物質の量が増え、糖尿病、高血圧、高脂血症といった動脈硬化に悪影響をもたらす疾患が重積し、将来心筋梗塞、脳梗塞といった命にかかわる疾患の発症する危険が増えることがわかり、メタボリックシンドロームと呼ばれるようになりました。

さて、現在の皆さんの体は、このような危険な状態に陥っていないでしょうか？ 検診で、血糖、血圧、

脂質を測定してもらうことは大切ですが、肥満度、体脂肪率、内臓脂肪量で自分の体を評価することはもっと重要です。肥満度は、体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で算出するBMI (body mass index)で評価します。22が標準値であり、25以上は肥満です。しかし、筋骨隆々で体重が重くなっている人は決して不健康ではありませんし、太っていないけれども筋肉がやせ細り、脂肪の割合が多い人は隠れ肥満として問題になります。そこで体脂肪率測定が重要となり、男性20%以上、成人女性30%以上は多すぎと判断します。更に、脂肪組織の中でも内臓脂肪は皮下脂肪に比べてより体に悪影響をもたらします。内臓脂肪は腹部CTで定量し100cm<sup>2</sup>以上が危険とされていますが、より簡便には腹囲（臍周囲径）を測ることで評価することができます。男性で85cm以上、女性で90cm以上が危険レベルとされています。

メタボリックシンドロームの予防、治療の第一歩は生活習慣の見直し、バランスの取れた体を維持することにあります。勿論、治療に薬物療法が必要になる場合も少なくありませんが、適切な食事療法、運動療法なくしてメタボリックシンドロームの管理は成り立ちません。メタボリックシンドロームの検査、治療をご希望の方は、是非内科を受診してみてください。



西村部長



石橋部長



今澤医長



関室長



小林室長



祖山医師



首村医師

メタボリックシンドロームの診断基準

# 1 : 必須項目

腹囲 男85cm以上、女 90cm以上

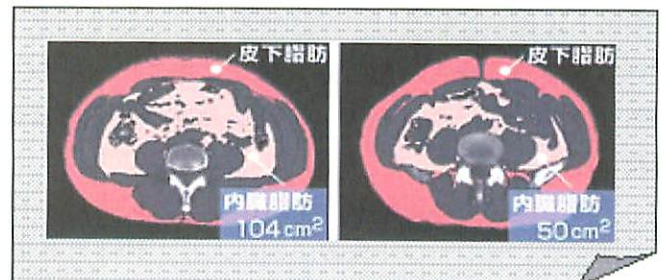
# 2 : 以下の3項目中2項目以上を満たすもの

空腹時血糖110mg/dl以上

血圧130/85以上

中性脂肪150mg/dl以上

またはHDL-コレステロール40mg/dl未満





整形外科

整形外科の紹介

当院整形外科は従来、脊柱側彎症など脊椎疾患を中心に診療をおこなってまいりました。さらに本年1月より田原、本年4月より勝見、赤澤が、新規に赴任し、関節疾患の治療にも力を入れていく体制となりました。関節疾患においては、最近では高齢化に伴う変形性関節症が非常に注目されております。変形性関節症とは軟骨の変性が体質、加齢、環境などの要素により進み、関節の変形、炎症、疼痛をきたす疾患です。現在では日本で数百万人も罹患している患者さんがいるといわれております。変形が重度になると下肢の関節の場合、歩行が困難になるため、同疾患に対する治療が非常に重要になってきております。特に膝関節は同疾患の罹患部位としては非常に多く、当科においても治療として力を入れております。保存的治療としては、消炎鎮痛剤の投与、外用剤の使用、ヒアルロン酸製剤の関節内投与、足底板など装具療法などをおこなっており、それらで症状の改善が得られない場合は、関節鏡視下手術、人工関節置換術などの手術的治療を行うことも可能です。その他関節疾患としては、半月板損傷、各種靭帯損傷、関節リウマチによる関節症、大腿骨頭壊死、大腿骨顆部骨壊死などがあり、当科ではそれらに対し幅広く対応させていただきます。

一方、脊椎疾患では最近ではやはり高齢化に伴う変性疾患として脊柱管狭窄症が増えてきております。脊柱管という脊髄神経の通り道が脊椎の変形などにより狭くなる病態で、症状としては立位、歩行時の臀部、下肢痛が増強し、歩行が困難になるのが特徴的です。治療としては、消炎鎮痛剤の投与、外用剤の使用、コルセットなどの装具療法その他、血流改善剤の投与、各種神経ブロック注射をおこなっております。症状の改善の得られない場合は、手術的治療を行うことも可能です。脊柱側彎症など他の脊椎疾患に対しても従来通り引き続き、力をいれて診療してまいります。

また骨折、捻挫など急性の外傷に対しても柔軟に対応いたします。

勝見 明 整形外科医長  
専門 関節疾患



田原正道 リハビリテーション科医長  
専門 関節疾患



赤澤 努 整形外科医師  
専門 脊椎疾患



「変形性膝関節症」

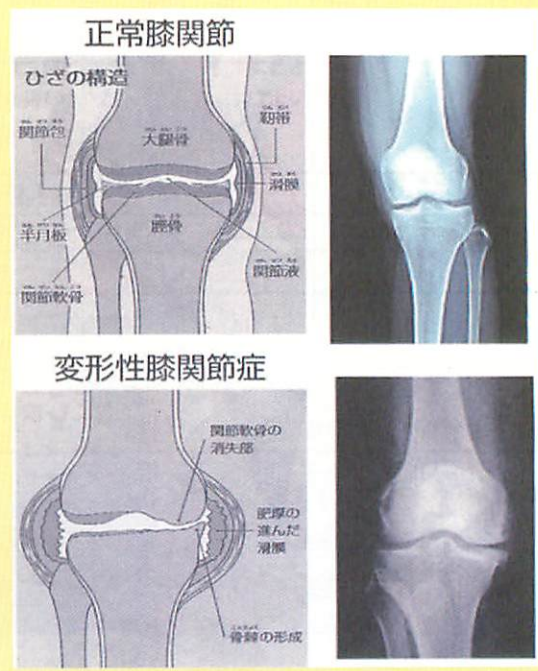
わが国の総人口125,000万人のうち変形膝関節症の患者数は1,200万人で要治療者は700万人と言われております。中高年になって膝が痛む病気の中で最も多いのが、この変形膝関節症です。

変形性膝関節症とは

関節軟骨の変性、磨耗による荒廃と、それに伴う軟骨および骨の新生、増殖による慢性、進行性の変形の関節疾患です。簡単に言えば、加齢、肥満、けがなどにより、関節の軟骨が磨り減り、さらに骨が変形し痛みを生じる病気です。

どんな症状ですか？

- (1) 痛い：初期は動作開始時の痛みを訴えることが多いです。病期が進むと動作中の痛みを訴えるようになり、階段昇降、特に降りるときの痛みが特徴的です。さらに病期が進むと歩行が困難になることがあります。圧痛は関節の内側にあることが多いです。
- (2) 伸びない、曲がらない（可動域制限）：初期は、関節水腫（水がたまる）、滑膜肥満が原因で、進行すると関節面の変形、関節包の拘縮、筋力低下が原因となります。正座ができない。
- (3) 太くなった（主張）：関節内に炎症を起こすと関節液がたまりやすくなります。
- (4) O脚（変形）：骨破壊が進んだとき。
- (5) ぐらぐらする（不安定性）：歩くとき外側にぐらつく。





# 外 来 診 療 担 当 医 表

平成18年10月 1日現在

		月	火	水	木	金
内 科	腎	西 村 石 橋	首 村 祖 山	今 澤 小 林 関	西 村	石橋(1,3週) 首村(2,4週)
	糖尿病・内分泌			西村(午後予約のみ ・糖尿病生活習慣病 外来)		
	消化器科	※注	※注	小 島	※注	小 島
	循環器科	※注	中 里	※注	中 里	※注
	アレルギー科 (リウマチ・ 膠原病)	松 村		交代制 (千葉大学より)	松 村	松 村
神 経 内 科		新 井 石 川		特殊外来(治験) 午前中のみ	新 井 吉 山	新 井 小河原
呼吸器 科	呼吸器	橋 本 篠 崎 川 崎 八木(新患)	別宮(新患)	佐々木(新患)	佐々木 八 木 別 宮 橋本(新患)	山 岸 佐々木(新患)
	呼吸器(第3)	八木(新患)	山 岸 佐々木 川 崎 橋本(新患)	八 木 篠 崎 別宮(新患)	橋本(新患)	佐々木(新患)
小 児 科		倉 山 宇田川 松 村 安 齋			倉 山 宇田川 松 村 安 齋	
外 科	肝・胆・膵	剣 持 西 郷	丸 山 坏	(手術日)	丸 山 岩 下	剣 持 大 月
	消化管 移植			(新患応需)		
整 形 外 科 リハビリテーション科		勝 見 田 原 赤 澤	(手術日)	(新患応需)	勝 見 田 原 赤 澤 大 塚 (午前側彎症外来)	勝 見 田 原 赤 澤
呼吸器外科		(新患応需)	山 川 藤 野	山 川 藤 野 山 本	(新患応需)	山 川 山 本
泌尿器科		香 村	(新患応需)	(手術日)	香 村	(新患応需)
眼 科		今 井	(手術日)	今 井	今 井	今 井
形成外科		栗 山	村 田	栗 山	(新患応需)	栗 山
歯 科 (入院のみ)		大塚(義) 渋谷	大塚(義) 渋谷	大塚(義) 渋谷	摂食機能外来 (新患)	大塚(義) 渋谷

※診療受付時間(初診・予約外) 月曜日～金曜日 午前8:30～午前11:00

※注) 緊急の場合、内科にて受診応需。

<地域医療連携室からのお知らせ>

当院の地域医療連携室では、医療機関様からのお問い合わせに対して、連携窓口として連絡調整等を行っております。お問い合わせ、ご不明な点やご意見ご要望等がございましたらご遠慮なくお知らせ下さい。

千葉東病院 地域医療連携室

TEL・FAX 043-264-3531(直通)

〒260-8712

千葉県千葉市中央区仁戸名町673

電話:043-261-5171

FAX:043-268-2613

国立病院機構千葉東病院

編集担当 地域医療連携室 小貫・岡本  
放射線科 伊藤